

栄光

説教

『まことの幸い』

マタイによる福音書5章1節～12節

種房惇子

説教・「まことの幸い」種房惇子教師	1
特集・あなたへ送るクリスマスメッセージ	2
召天者記念礼拝報告	5
説教・「見果てぬ希望」岸牧師	6
幼児祝福式報告	7
長老のファイル	7
牧師の書齋から	8

私達は皆「幸い」を求めています。

と力を与えられたいと願うのです。

政治や経済の発展により豊かな生活が保障され、科学や教育の

私達が一般的に「幸い」と考えるのは、豊かさであり、目標達成

進歩により文化的に成熟した社会

であり、成功であり、自分にとって喜ばしい出来事のことです。し

の達成を目指して努力してきました。

かしここでは正反対の貧しさ、悲

しみ、苦しみを幸いと言っています。

主イエスは、身を低くして生

きたからです。しかし、どうでしょう。

私達は、幸いよりも悲し

みを実感することが多くなりまし

た。世界では、自己の利益を追求

し、争いが生じ、与え合うよりも

奪い合うことが起こり、平和な社

会が崩されていくのを見てきました。

新種のウイルスによる脅威も

世界中が経験しました。今こそ、ま

ことの幸い」を告げる御言葉に聞

く必要に迫られています。絶望的

になりそうな時に、私達は主が語

られる「まことの幸い」に耳を傾

け、この慰めの言葉によって希望

と力を与えられたいと願うのです。

私達が一般的に「幸い」と考

えるのは、豊かさであり、目標達成

であり、成功であり、自分にとっ

て喜ばしい出来事のことです。し

かしここでは正反対の貧しさ、悲

しみ、苦しみを幸いと言っています。

主イエスは、身を低くして生

きたからです。しかし、どうでしょう。

私達は、幸いよりも悲し

みを実感することが多くなりまし

た。世界では、自己の利益を追求

し、争いが生じ、与え合うよりも

奪い合うことが起こり、平和な社

会が崩されていくのを見てきました。

新種のウイルスによる脅威も

世界中が経験しました。今こそ、ま

ことの幸い」を告げる御言葉に聞

イザヤ書66章2節で「私が顧みるのは、苦しむ人、霊の碎かれた人、私の言葉におののく人」と主は言われます。主の前に、自らを無にして「助けは主のみから来るのだ」との確信を持って主に祈ることなのです。

みまで愛し抜かれた神の愛を知り、主に倣う生き方を求める時に、主が私達の中に生きて働き、聖霊の力により清い者に造り変えて下さるのです。主イエスによって、私達は主の似姿に変えられてゆくのです。それを成すのは、私達ではなく、主イエス・キリストなのです。「私のためにのしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられる時、あなた方は、幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある」の言葉を積極的に恵みの言葉として喜びをもって受け入れるよう導かれるのです。

主イエスは、山上の説教で告げ

られる9つの幸いをもたらず、貧

しさ、悲しみ、柔和さ、正しさ、

憐れみ、心の清さ、平和、義のた

めの迫害、身に覚えのない悪口の

全てを経験されました。私達の罪

を代わって担われ、私達のために

十字架で命を捨て、敵を愛する愛

敵をもつて全ての者に仕え、私達

に愛を示されました。その主を私

達は、「わが主、わが神」とほめ

讃え、自らを無にして主に従うこ

とこそが「まことの幸い」である

と告げています。幸いの源が、主

イエスであることを語っているの

です。ですから、その根底に流れ

ている主イエスの十字架と復活の

意味が理解できなければ、山上の

説教を理解することはできないの

です。

キリスト者が信仰により主に絶

対的な信頼を置き、命を懸けて極

まで愛し抜かれた神の愛を知り、

主に倣う生き方を求める時に、主

が私達の中に生きて働き、聖霊の

力により清い者に造り変えて下さ

るのです。主イエスによって、私

達は主の似姿に変えられてゆく

のです。それを成すのは、私達で

はなく、主イエス・キリストなの

です。「私のためにのしられ、迫

害され、身に覚えのないことであ

らゆる悪口を浴びせられる時、あ

なた方は、幸いである。喜びな

さい。大いに喜びなさい。天には

大きな報いがある」の言葉を積極

的に恵みの言葉として喜びをもつ

て受け入れるよう導かれるのです。

私達は、主イエスのご生涯、お

姿を心から崇めて、主の生き方に

喜んで倣い、聖化されることを祈

るのです。「生きていますのは、も

はや私ではありません。キリスト

が私の内に生きておられるので

す」(ガラテヤ2・20)。信仰を与

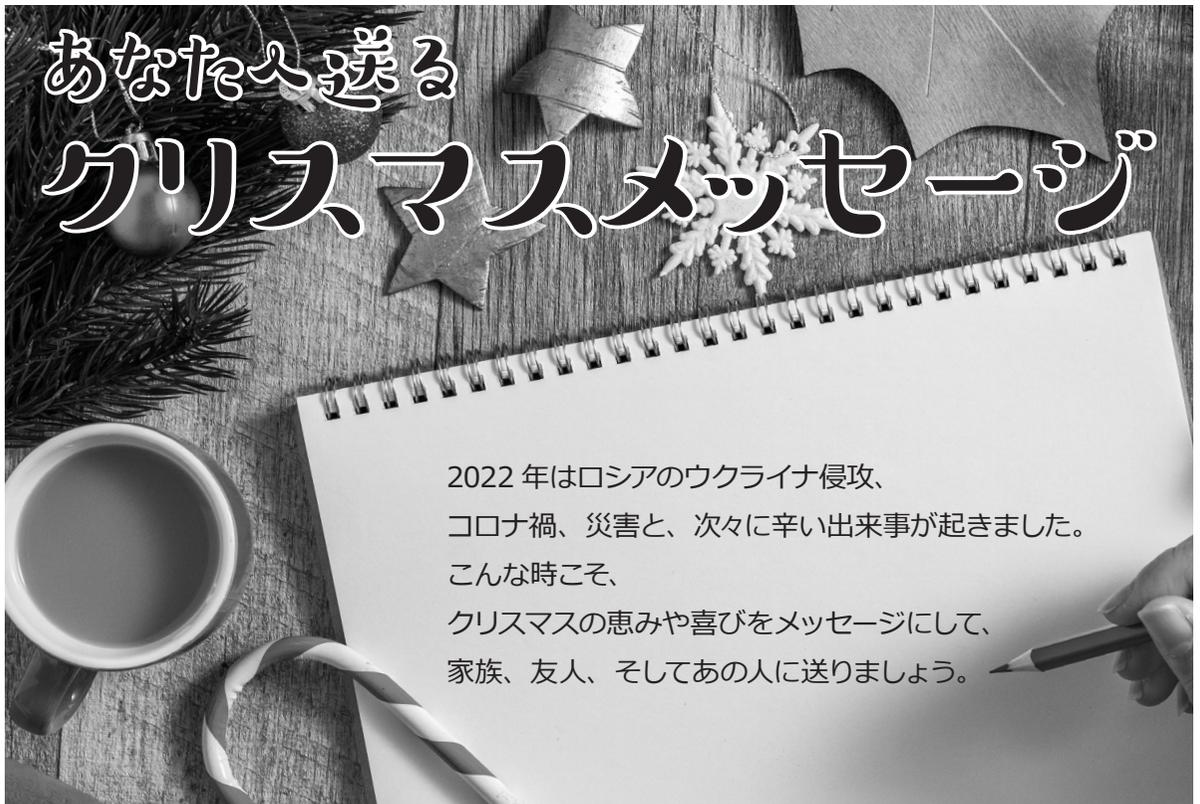
えられた私達は今、神を愛し、主

イエスを崇めて従う者に変えてい

ただきたいとの強い思いをもつ

て、神様にお委ねし祈りながら歩

みたいと願います。そこに「まこ



2022年はロシアのウクライナ侵攻、
 コロナ禍、災害と、次々に辛い出来事が起きました。
 こんな時こそ、
 クリスマスの恵みや喜びをメッセージにして、
 家族、友人、そしてあの人に送りましょう。

あなたへ贈る クリスマスメッセージ

稲葉美津子

クリスマス、イエス・キリスト
 降誕の日。この日を皆で毎年、当
 然のようにお祝いしていたのに、
 この3年でできていません。

まず、コロナの感染で毎週の礼
 拝も制限され、通えない人はどう
 にかオンライン礼拝で守られてい
 る中、今年の2月末の、ロシアに
 よるウクライナへの侵攻は、世界
 平和を危うくする始まりだったと
 思います。

本当に、他国のことではありません。
 せん。ロシア寄りのベラルーシの
 一般の人へインタビューしている
 番組をみた時です。その人は「今
 の状況をどう見ますか」との質問
 に「日本だって、第二次世界大戦
 では同じことをしただろう？」と
 答えました。その事実を今の若い
 世代のみならず多くの日本人たち
 は忘れていたのではないかと、思
 うのです。

日本もアメリカへの真珠湾攻撃
 で、第二次世界大戦開戦、アジア
 諸国への侵略、そして、アメリカ
 による広島・長崎への原爆で終戦。
 人間は、本当に何故、これらの戦
 争から、何も学ばないのでしょ
 うか。

日本は唯一の被爆国でありなが
 ら、未だに核兵器禁止条約に不参
 加なのです。個人では何もできず、
 核が使われないことを祈るのみで
 す。

「主は来られる、地を裁くため
 に来られる。主は世界を正しく裁
 き、真実をもって諸国の民を裁か
 れる」(詩編96・13)。

神がイエス・キリストをこの世
 に遣わしたのは、まさにこのため
 ではないかと信じます。

主イエスの恵みが、すべての者
 と共にありますように。アーメン。



嬉しい楽しいクリスマス

濃 眞智子

子ども讃美歌の中にあるこの曲をクリスマスが来る度に口ずさむのですが、嬉しくも楽しくもない……と思ってしまう、そんな経験を何度かしました。自分のことばかりで、いちばん大切なことを見失っていた、と今はわかります。

3年前、母は3度目の転院で府中の病院にいました。「いつ退院?」6週間後と伝えると「クリスマスもここ? お正月も? そんなの嫌だ」と子どものように言いました。個室だったので私と妹でツリーやガーランドなど壁に思いっきりクリスマススの装飾をしました。いつの間にか病院スタッフからのカードが加えられ、看護師さんたちがこの壁を見にこられるようになりまし。窓辺に置いたライトの点くガラスのクリスマスツリーは夜景と一体となって美しい絵のようでした。イブには母と一緒に讃美歌を次々歌いました。岸先生、

狩野先生がお見舞いくださり、聖餐を受けました。狩野先生の讃美歌の歌声はフロア中に大きく響き渡った、と後から聞きました。どんな状況の中にあっても主はそこにおられ、支え励ましてくださると知ったクリスマスでした。

母への手紙をここに記します。「寒くなりました。お元気ですか?」近所のメタセコイア通りが紅茶色に染まって、落葉のうえを歩くとふわふわして気持ちがいいです。お父さんが92歳になりました。昨年は高熱を出し入院していて病院で誕生日を迎えましたが、今年はずこぶる元気です。私たち3人と叔母とで昨夜誕生日会をしました。もうすぐクリスマスですね。たくさんあるクリスマスの飾りや職員の方をお願いして、探して飾ってもらってください。本当ならば、病院でしたように私たちでやりたいのですが、今は叶いません。イブには讃美歌を歌いましょう。私も歌います。教会では礼拝が捧げられます。心をあわせてそれぞれの場所で一緒に歌い祈りましょう。みんなで会える日は必ず来ます。楽しみにしています。」

離れていても

原 知子

クリスマスの喜びや恵みを分かち合うクリスマスカードを書く時間は、とても幸せなものだと思う。相手を思い浮かべながらカードを選び、お茶を飲みながら何を書くかを考え、クリスマス・キャロルを聴き、口ずさみながら1枚ずつ書く。遠くにいるあの人へ、いつもお世話になっているあの方へ、変わり映えしないかもしれないけれどメッセージを書くのは楽しい。

同時に、直接クリスマスのお祝いを伝えられない人に想いを馳せる時期でもある。CSの子どもたちや教師をいつも気にかけてくださっていた萩原和子姉、イブ礼拝後のキャロリングで自宅にお伺いした小久保薫子姉。お話させていただいていた時間を尊く思い出しつつ、天での初めてのクリスマスで沢山の方と一緒に祝いされているのかなと想像すると、寂しさが和らぐ気がする。

今年亡くなった方と言えば、エリザベス女王もその1人である。ロンドン在住時、現在の上皇上皇后陛下と女王のパレード観覧に駆り出された際にお見かけしたため親近感があった。クリスマスは女王のメッセージが出ることで有名であり、毎年動画を見ていたため、代替わりは寂しく感じる。こちらでも天でご家族と楽しくクリスマスを過ごされるだろうか。

最後に、3年前のこの時期に亡くなり、クリスマス礼拝日が告別式となった祖母を思い出す。浄土真宗のお経を聞きながら過ごすクリスマスは不思議だったが、祖母との別れはこの時期だからか、「またね」と再会を楽しみに思える前向きな時間でもあった。だからか、「クリスマスおめでとう」と祖母に語りかけたくなる。クリスマスのお恵みは、天にあるものと地にあるものを一つにすると思う。なかなか会えなくても、天に召されていても、主が私たちを愛されて独り子をお与えになった喜びを共に分かち合えるように、この時期はできるだけ空を見上げて笑いたい。

コロナ禍を生きる中高生に

松井光子

クリスマスが近いことを感じるのは夜道を歩いている時。悲しみは本当に深いところで慰めと一つになっていて、私たちの悲しみをそのままにしないために二千年前にイエス様が暗い夜にお生まれになったとのメッセージが心に響く。

以前「希望のあなた」という映画を観た。主人公はシリア難民の青年。彼は内戦で家族を失い、ヨーロッパへ逃れ、フィンランドに流れつく。しかし難民申請は却下され、ベッドを並べただけの収容施設に寝ころび空を見つめる。働くこともかなわない環境が、彼らを精神的に追い詰めていく。そんな彼に、自ら人生で挫折を経験しヘルシンキの片隅でレストランを経営するオーナーが救いの手を差し伸べ、レストランに彼を雇い入れる。——監督のカウリスマキ氏は「社会の片隅で生きる、少しばかり孤独を抱えた人々の小さな優

しさが、一人の青年の魂を救う。誰かを受け入れるとき、そこに希望が生まれる」と、受け入れて助け合う人々の姿を描いたという。

数年前に現代アラブ文学研究者の岡真理氏の講演を聞いた。岡氏は、パレステイナのガザで続く占領の現状、占領を見過ごしている世界の現状を糾弾する一方、他者への共感を失わず、イスラエルのユダヤ人との共生への夢を語るパレステイナ人がいることを語られた。そして「人間にとつての真の敗北は自分以外に大切なものがないことになってしまうこと」との言葉に続けて、「明日の世界がどうなるかは、今日とは違う明日の世界を私たちがどう想像できるかにかかっている」と語られた。

日々、他人の苦しみを自分の苦しみとすることが困難であることをいやというほど知らされる。だからこそクリスマスのこの時、苦しんでいる人の苦しみを理解し弱者の重荷を代わって負ってくださったイエス様を心に迎え入れ、「自分以外の大切なもの」と出会い、かかわる者になりたい。かかわる者になつてほしい、と切に願う。

つみかさねの旅路

多田佳子

生きることは、旅です。はてしもなく遠い駅を、旅路の先に見つめます。いくつもの駅を過ぎて「すべてよし駅」は、決して現れることがないのです。心を決めて、もう一度立ち戻り、大きく深呼吸をし、「この広い世界と澄んだ空気は、本当に幸福駅だ」と思い、清々しさが脳に広がります。

社会的に男女差があつた昭和30年代から、将棋を指し、アマからプロの女流棋士一期生となり、40年。将棋連盟から独立して、小さな女流棋士だけの日本女子プロ将棋協会を設立。ロゴマークは「ひまわり」。常に太陽の方向に咲く花、小さな田がだんだん大きく上に伸びて「上昇」表現です。三つのわ「和・話・輪」を基にしました。人生の喜びは三つあるといわれています。創造する喜び・感動する喜び・出会いの中で生まれる喜び。意外な驚きと素朴な感動です。

「つみかさねの上に咲く花。つみかさねの果てに熟する実」。坂村真民さんは、人間誰でも無限の力を持つている、と説きました。「人間の一生は神様の書いたおとぎ話である」(ハンス・クリスチャン・アンデルセン)。

エニアグラムという、人間の本質は九つのタイプがあるとすると、古代からの心理学的な研究があります。私は楽道家で、ポケットをたくさん持つて鳩を出す、パワフルに自己実現を図ろうとするするタイプです。

クリスマスは神様からもらった贈り物です。80代になり、免疫力、体力等に不安はありますが、これからも生きていく生命、活力源に、恵みと愛たくさんのお支えに感謝、共に成長していきますように。



召天者記念礼拝報告

神様ありがとうございます！

青木淳子

11月6日、召天者記念礼拝に与らせていただきました。6月15日に天に召された娘、美歌の告別式を6月18日にしていただいた時には、心の扉を開くことがまだ出来ないでいましたが、今回同じ場所で、しかも青木の両親、美歌にとっではおじいちゃん、おばあちゃんの写真に見守られながら十字架を見上げていた時に、大切な気づきを頂きました。

私が中学で恵泉に入学して以来毎週礼拝に通い、19歳の時に洗礼を受けたこの教会。8年後に結婚式を挙げ、ノアの会（小さい子どもを持つ夫婦の会）では陽介も美歌も生まれた時から温かい交わりの中で育てていただきました。美歌が4歳の時に札幌に転居しましたが、夫と私、両方の実家があった経堂に戻る度に共に礼拝に出席しました。「あの頃、私が右手で聖歌隊の指揮をしながら左手に抱いていたあの美歌が、こんなに大きくなって美大を出てアーティス

トになりました」とご挨拶して皆様に喜んでいただきましたね。

美歌は39歳で病気がわかり、辛い闘病を経て、大好きな経堂に転居し、一時は寛解と思われたのですが、41歳1ヶ月で天に召されました。その直後は「神様、どうしてですか？（泣）」との想いに捕われていましたが、先日の記念礼拝で十字架を見上げている時、ふと45年前のノアの会での会話を思い出しました。

私が初めての子、陽介を出産した時に、既に2人のお子様をお持ちだった姉妹がこう話してくださったのです。「子どもって、神様からお預かりしているものなのよね」

5ヶ月経った今もまだまだ「なんで美歌が居ないの？（泣）」「美歌に会いたい（泣）」と涙する日々ですが、いつも最後は自然に微笑んでこう祈ることが出来ています。

「神様、あんなに可愛くてスゴイ子を、私たちに預けてくださって、本当に有難うございました！」

感謝！

召天者記念礼拝に出席して

渡邊涼子

小春日和の11月6日、私たち遺族5人は召天者記念礼拝にお招きいただきました。

オルガンの荘厳な響きの中、沢山の写真に囲まれ、そのお一人お一人がキリスト教を扱った所とし、経堂北教会に思いを寄せて亡くなった方たちであり、母もその方たちとご一緒することができたのだなあと感慨深いものがありました。

葬儀の時、そして今回の岸先生のお説教から思うことは宗教や信仰の意味についてでした。

母もそうであったように、毎週教会に集い、礼拝を守り、思いを一つにして祈る。そして教会から帰っても毎日の生活の中で祈り、自らを省みる。その連続を生活の基盤としていくこと。当日司式の小嶋幸子様の祈祷からもそのことの大切さを強く感じる事ができました。

コロナ禍の期間、母は礼拝には出席しませんでした。おそらく自分が想った時、祈った時に神はここにいると思っていたことでしょう。それは脳梗塞による麻痺で

両手を合わせ祈ることができなくなっても心の中で変わらず守っていたことだと思っています。同時に宗教や信仰とは、他を排斥することではなく、皆の幸せを願うものであつてほしいとも感じました。今まで母を見守り支えてくださった岸先生御夫妻、問安委員会の皆様、教会員の皆様がこの場をお借りし、厚く御礼申し上げます。最後に、母は生前よく「教会から原稿の宿題が出ちゃったのよ。出来あがったら見てね」と言っておりました。今回は私が母の写真にむかい「しげ子ちゃん（私たちが姉妹は母を名前前で呼んでいました）私も宿題もらっちゃったの。これでいいと思う？」と聞きました。このことを告白いたします。

（小久保薫子姉ご遺族）



説 教

『見果てぬ希望』

コリントの信徒への手紙一

15章20節～28節、50節～58節

岸 俊彦

召天者記念礼拝で覚える私たちの信仰の先達は、キリストに従い、神を信じて、それぞれの賜物を生かし、家族を愛し、その務めを全うしました。どのような環境、どのような立場、どのような人生であろうと、私たちの人生は、共に主に従い、互いに励まし合い、「わたしは道であり、真理であり、命である」(ヨハネ14・6)と語ってくださったキリストの道を通して、私たちの真の故郷、天の国まで共に歩みぬく人生です。主が羊飼いとして、羊である私たちを守り、支え、導いてくださいます(詩23)。主イエス・キリストこそ、罪と死を打ち破り、死者の中から復活され、今も共にいてくださる御方です。

「朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになります」(53節)。私たちは、キリストを信じ、洗礼を受けて、キリストを着ることが出来ます(ガラテヤ3・26～28)。キリストと共に死んで生きるのであります。新しく生きる事ができるよう「神を待ち望む」(詩42・12)のです。独り子イエスを賜るほどに世を愛してくださいる神に(ヨハネ3・16)、私たちの生と死を、死後も含めて丸ごとお任せするのです。そして「主の業に常に励み」ます(1コリント15・58)。

直訳は「主の業に満ちあふれる」です。私たちには主の恵みが満ちあふれています。十分な恵みに感謝するのです。他に何が必要でしょうか。死に打ち勝つ勝利、それは私たちの信仰です。だれが死に打ち勝つことができるのでしょうか。十字架の死を遂げ、死者の中から復活されたキリストを信じる私たちこそ、キリストの恵みによって、死に打ち勝つことができるのです(1ヨハネ5・4, 5)。

私たちの愛する信仰の先達は、この信仰にしっかりと動かされないように立ち続けました。主の恵みに生かされました。やがて、私たちも礼拝堂に掲額される一人となることでしょう。それは、私たちが主と共に、愛する者と共に、真の故郷、天にあることとしるしとなるでしょう。それまで、罪と死に勝利されたキリストを信じ、キリストに任せ、共に祈り合い、支え合いながら、この人生を終わるまで歩んでまいりましょう。

エリザバス女王の葬儀で、ジャスティン・ウエルビー大主教はベラ・リンの歌「またお会いしましょう」を最後に引用しました。コ罗纳禍の演説で女王が引用した歌だそうです。

We'll Meet Again

また逢えるでしょう／どこかは分らず、何時とは分らない／けれどわたしたちは明るく晴れた日にまた逢えるでしょう／あなたはいつもしてきたように笑顔でいて／青空が暗い雲を遠くへ運び去るまでだからわたしはあなたの知っている人たちに挨拶して／もうすぐ逢えると伝えるの／みんな知れば幸せになるわ あなたがわたしに逢って／わたしがこの歌を歌っていたことを

また逢えるでしょう／どこかは分らず、何時とは分らない／けれどわたしたちは明るく晴れた日にまた逢えるでしょう

(MAGIC RAIN より引用)

大司教は、「どこかは分ならず、何時とは分らない」という意味ではなく、終わりの日、きっと御国でキリストにあつて再会できると語ったのでした。「キリスト教の希望とは、まだ見ぬものへの確実な期待を意味するからです。キリストは死からよみがえり、すべての人に命を与え、現在の豊かないのち、また永遠に神と共に生きるを与えられました」。

終わりの日、主と愛する家族と私たちが再会できることを信じて「またお目にかかりましょう」。

(召天者記念礼拝説教)

私たちは死に逝く人間です。生まれ、生きて、様々な問題を抱えて、必ず死ぬのです。パウロは語ります。「わたしはあなたがたに神秘を告げます」(15・51)。

幼児祝福式報告

「大変だ！ CS席が足りないではないか！」

祝福式数日前、次々と寄せられる出席の返事を集計しながら私は慌てた。当初礼拝堂の前方4列ほどをCSスペースとして準備する予定でいた。ところが気がつけば、祝福を受ける子どもが7名、保護者の皆様、生徒たち、教師たち、全員合わせてCSからの出席予定は35名！

世の中では少子化が叫ばれ、コロナ第8波の入口にある今、人数の多さに慌てるとは。こういう嬉しい悲鳴をあげる教会学校はそうないだろう。コロナ禍ゆえに余裕のある着席間隔が必要ということもあり、ありがたくも礼拝堂の半分近くをCSで使わせていただくことに決まった。

主役の7名の子どもたち。3名は祝福の常連である年長組。彼らにとっては最後の幼

児祝福式だ。ひよこのような頃からの過去の祝福写真を、準備であたふたしているにもかかわらず、思わず見返してしまう。本当に大きくくなった。

そして、1つ年下の元気な女の子が1名。さらに、今回初めて祝福を受ける赤ちゃんたちが3名も続いた。

何という恵み。言葉にできない神様への感謝。

見守る年上の子どもたち、ご両親、立ち会ってくださった皆さま、全員が聖霊に包まれていた。今年も思い出と、喜びと、感謝が胸に刻まれた1日だった。子どもたち！ 主にあって、すくすくと成長してください！

(石室裕二)

長老のファイル

クリスマスおめでとうございませう。この1年もコロナ禍が続き、武力衝突や衝撃的な事件もありましたが、キリストのご降誕を祝う季節となりました。ひと時でも、皆の心に平安が訪れ、心の底からクリスマスの喜びを分かち合えればと切に祈ります。

この秋もコロナ禍により諸行事は可能な範囲での開催となりました。ミニバザーでは、有志による製作品を手を談笑する輪があちこちで見られました。召天者記念礼拝は2回に分け、愛餐会はできませんでしたが、多くのご遺族と共に、信仰の先達たちに思いを馳せました。幼児祝福式には7人の幼児が祝福を受け、成長を皆で喜びました。召天者写真の並ぶ礼拝堂を物珍しそうに見回す子どもたちは、神の家族の姿を感じられたでしょう。85周年記念礼拝では、7月に続き中村先生をお迎えし、当教会の主にある不屈の歩みを振り返りました。教会学校は、9月から牧内歩兄が先生として加わり

ました。収穫感謝日には、感謝対策として持ち帰るだけでしたが、3年ぶりに焼き芋を作り、主からの恵みに感謝しました。

さて、クリスマスを前に良い報告が届きました。高知教会の松浦子基先生の正教師試験合格です。先日、オンライン開催した青年会に松浦先生も参加され、皆で祝いました。先生はホッとされつつも、既に初の聖礼典や今後の伝道に意識を向けておられました。松浦先生とご家族の今後の歩みに主の祝福を祈ります。また、今年度は当教会を卒業された先生方も、説教奉仕を引き受けてくださっています。各地に遣わされ、活躍されている先生方をお迎えできることは、大きな喜びであり励みです。今後も成長された先生方を、神様が説教者として立ててくださいることを楽しみにしたいです。

今年24日にイヴ礼拝、25日にクリスマス礼拝が午前・午後と2回持たれます。伝道師不在につき、岸牧師が2日間、3回説教されます。コロナ第8波も心配されますが、用心して祈りつつアドベントを過ごしましょう。(原良介)

牧師の書齋から

ナオミ会で「昨年の新年礼拝の説教『立派な行い』について解説してください」と、一人の方から言われました。少し驚きました。聖書箇所も、どんな内容だったかも全く覚えていませんでした。説教題も印象に残るような題ではありません。

正直なところ、説教の準備に追われ、振り返る余裕がありません。月報の予定表は礼拝と集会だけで

それ以外の務めはほとんど無くなり、空白が目立つようになりました。が、その分、余裕を持って説教の準備もできるかと思つたらそうではありません。予定が詰まっていた時は万一に備えて早め早めに準備せざるを得ませんでした。あ

りがちですが、時間的に余裕があると何事も後回しになります。一人で週報の印刷などしていることもあるでしょう。過去3回一人体制の時は支区教区の務めと教会の仕事も苦にはなりませんでしたが、高齢者に数えられるようになって

確かに以前のように仕事を運ぶことが出来なくなっています。ただ、新しいことではありませんから、何とか出来るのだろうと思えます。

さて、説教『立派な行い』です。確かに昨年1月3日新年礼拝の説教です。聖書箇所は、1ペトロ2・11、12とイザヤ10・1-4です。「大晦日のコロナ感染者は1300人、緊急事態宣言も出るよう」と。今は感染者が1万人以上でも慣れてきたというか、以前は分かつたバタバタしていたというか。「魂に戦いを挑む肉の欲を避け、

個人消息



掲示板



- 西南支区按手礼 12月5日(月) 午後7:00
於 中渋谷教会
- クリスマスイブ礼拝
12月24日(土) 午後5:00
説教「産声は世界に」
ミカ5:1-5 ルカ2:1-20 岸 俊彦牧師
- 教会学校クリスマス礼拝
12月25日(日) 午前9:00
説教「東方の博士たち」マタイ2:1-12
原 知子
- クリスマス礼拝
12月25日(日) 午前10:15 午後2:00
説教「嬰兒イエスの栄光」
イザヤ60:1-5 マタイ2:1-12 岸 俊彦牧師
- 新年礼拝 1月1日(日) 午前10:15

編集後記



▽毎年この時期は、子どもへのクリスマス・プレゼントを何にするか悩んだものです。成人した今年はどうしようかなあ…。(酒井)

「栄 光」2022年12月号
日本基督教団 経堂北教会
〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
牧師：岸 俊彦
編集：栄光編集委員会
Email：kyodon@nifty.com
HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

立派に生活する』とは特別なことではなく、平凡な日々を信仰をもって受け止め生きることです」と説教原稿には記されていました。「平凡な日々を喜び、祈り、感謝する生き方は、終わりの日、再び主が来てくださることを意識しながら今日を生きることで」とも。待降節に入りました。この世界に来てくださったキリストの憐れみを新たに覚え、再び来てくださる日まで、主の憐れみによって信仰生活、教会生活を黙々と続けたいと思います。(岸 俊彦)